



カレッジ college news だより

2004 Nov.
vol.

6

道民カレッジ受講生数
14,381人(9月30日現在)

「ほっかいどう学を学んで……」

ほっかいどう学コース 道民カレッジ博士
北広島市 近江哲郎氏



10月5日、ほっかいどう学コースの博士の称号申請をしました。約3年で、300単位を越えることができました。退職して3年、それ迄、細ほそと続けてきた短歌を、生涯かけて学んでゆくと決めていましたが、がむしゃらに仕事一筋で来た私には、底の浅い知識と、ものの見方、考え方の幼稚さに焦るばかりでありました。その頃、道立図書館で、道民カレッジのガイドブックを目にして、幅広い講座の内容を知り、改めて良い勉強が出来ると、早速入学したのでした。幸い札幌市内と近郊に多くの講座があり、1年間に100百単位のペースで学ぶことができました。

お陰で、短歌の方も着実に進歩してきているようです。現在、原始林社の同人として、そこそこの成果が挙がって来ていると感じています。何れ歌集が出せるようになりたいと、希望を膨らませている今日この頃です。

道民カレッジでは、数多くの良い勉強をさせて頂きましたし、心に残っている講座も少なくないのですが、何と言っても地理的条件が有利であった事が否めないと思います。道内各地にそれぞれ学習の機会を望んでいる人が多かろうと思いますが、今年後期のほっかいどう学コースの講座だけを見ても、60講座のうち、札幌が33、函館が7、釧路が近郊を含めても4、その他の地区では受講できるチャンスが極めて少ないのです。教育大学の公開講座のように、道内の各校をテレビで結んで同時に受講できるような方法が採れないものでしょうか？同時が難しければ、例えば各地の講座をビデオに収録してそれを他の地区で放映する等の方法もあると思います。これには、各市町村の協力が是非とも必要であり、また予算の必要もあるとは思いますが、道としても格別な配慮が為される事を切望します。

また、何らかの方法で、道民カレッジの発展に寄与することができるならば、労は惜しまない事を申し添えます。

道民カレッジの現況

(平成16年9月30日現在)

おかげさまで道民カレッジ事業は順調に推移しており、今年度前期の連携講座は、過去最高の講座数(660講座)となりました。特に市町村の連携講座が30講座以上も伸びています(15年度後期との比較32%増)。先頃発行した今年度後期ガイドブック掲載講座(471講座)と合わせて、**年間講座数は1100を超え**、過去最高の講座数を数えております。

また、学生数も14,000名を上回り、学士・修士も大幅に増加しています。

◎平成16年度前期連携講座の集計(全660講座)

ほっかいどう学コース 75講座 能力開発コース 84講座
健康・スポーツコース 82講座 教養コース 295講座
環境生活コース 124講座

◎称号取得者数

学士43名 修士19名 博士5名

◎管内別学生数(合計14,381名)

管内	石狩	渡島	檜山	後志	空知	上川	留萌
受講生	4,952名	739名	983名	1,132名	742名	518名	633名
管内	宗谷	網走	胆振	日高	十勝	釧路	根室
受講生	482名	1,157名	334名	844名	449名	674名	742名

道民カレッジにおけるほっかいどう学のあり方について

～道民カレッジ運営委員会からの提言～

(平成16年9月15日)

道民カレッジ事業も今年で4年目を迎え、「学習機会の拡充」から「人材育成プログラムの開発」へとシフトし、新たな事業展開を通して「道民カレッジ」の更なる充実・発展に期待が寄せられています。

平成15年9月に北海道生涯学習審議会が、「生涯学習社会の実現に向けた今後の推進方策について」の答申の中で、「道民カレッジにおける『ほっかいどう学』の提供」について提言を行いました。道民カレッジとしても、今年5月に開催された道民カレッジ運営委員会（町井輝久会長）において、「道民カレッジにおける『ほっかいどう学』の新たな構築と体系化」に向け、具体的な方向性や取組みについての検討作業を、「評価・活用検討部会」（木村純部会長）に依頼しました。

このことを受けて、評価・活用検討部会では、5月から8月にかけて計4回の部会を開催し、「ほっかいどう学について」の検討を重ね、8月25日をもって、ほっかいどう学の定義をはじめその方向性等についての部会案をまとめ、8月31日の運営委員会に報告し決定をみたところであります。

今後は、この運営委員会で決定した『ほっかいどう学について』を指針としながら、平成17年度の事業展開に向け、事務局をはじめ関係機関等で具体的な作業に入ります。その概要について紹介します。

1. 『ほっかいどう学』の定義

ほっかいどう学は、道民自身が北海道（あるいは道内のそれぞれの地域）について、現在を見つめ、過去を知り、未来のあり方を考える協働の学びである。この学習によって、道民としてのアイデンティティを確立し、主体的に学ぶことによって培われた知識と能力を生かして北海道づくり・地域づくりに参加する学習である。

2. 目的と意義

- ①道民自身が北海道（あるいは自分の生活している地域）の現状、歴史について学習し、それをもとに北海道を創造する主体となる学習である。
- ②学んだことを生かして地域づくりに自らから参加していくことに結びつく学習であり、単なる「ものしり」を育てるものではなく、地域づくりの実践方法の学習へと発展する、これからの北海道づくりに不可欠の学習である。そのためには、北海道を知るための学習講座に加えて地域づくりの実践方法についての学習プログラムの開発が求められる。
- ③行政機関や教育機関だけでなく、NPOや企業も参画する北海道を創造する協働の学びである。

- ④従来行政依存が強いとも指摘されてきた道民気質を改める契機ともなる学習である。
- ⑤大学放送講座や道立生涯学習推進センターの研修講座など、道民をはじめ学習の支援に当たる関係職員の養成も含む学習機会の改革・充実が求められる。

3. 体系化

- 1 学問としての「ほっかいどう学」（科学としての「ほっかいどう学」）
北海道地域を対象とする既存の学問の分野における成果をもとに、それらを地域研究として総合化し、より深めていこうとするものであり、「ホッカイドロジー」としての体系化を目指すものである。「道民カレッジ」としては、高等教育機関や関係学会の道民への公開講座等の開催やそれらと市町村との連携の取組を支援し、連携講座や大学放送講座への参画を求める。学習機会の情報を道民に提供して、道民の学習が、科学としての「ほっかいどう学」の発展を基礎にすすむという体制づくりを援助し、学問創造のプロセスに広く道民が関われるようにする。
- 2 実践としての「ほっかいどう学」（運動としての「ほっかいどう学」）
 - ①北海道についての多面的な知識の獲得
 - ②北海道民としてのアイデンティティの確立
 - ③学習に主体的に取り組むことによって得られた知識や技術を地域づくりに生かすこの3本の柱を目標に取り組まれるものであり、「運動としてのほっかいどう学」と呼ぶことができる。
この学習をつうじて「北海道スタンダード」を確立する学習ともいえるものである。
このような内容をもつ学習講座を積極的に道民カレッジの連携講座として位置づけるとともに、プログラム開発を奨励する。
- 3 道民と高等教育機関や関係学会との協働の学習であるとともに、道民と行政との協働の学習である。高等教育機関や関係学会が提供する学習についての情報の提供、プログラム開発における連携を追求する。
- 4 道民の学習の場に、研究者や行政職員が積極的に参加し、ともに学習する場となることが期待される。道民と共に学習することによって行政も変わり、道民との新しいパートナーシップが生まれる。行政職員等を対象とする研修機会への道民の参加を可能にするとともに、情報提供を行い、行政の領域を越えた連絡・調整組織を確立する。道や市町村が主催する学習機会を連携講座に位置づけていけるよう、内容の充実や学習方法の改善等を支援する。
- 5 学習機会の提供については、高等教育機関な

どの他に、NPOや企業等が広く関わる。例えば、千歳学出前講座等各市町村の取り組みにみられるように、「ほっかいどう学」の学習機会の提供は、行政や高等教育機関のみならず、NPOや企業も関わり、これらが主催・実施する学習機会を道民に幅広く開くものである。

4. 学習の課題及び領域

1 北海道生涯学習審議会平成15年度答申では、「ほっかいどう学」の領域あるいは分野を以下のように述べている。道民カレッジにおいては、「ほっかいどう学」の学びを重要な柱として定着させるために、今後は、領域・分野にもとづくコース区分を行っていく必要がある。

- ①本道の歴史や文化、自然、産業構造に基づく「ほっかいどう学」
 - ・自然との共生のための自然保護、環境問題学習
 - ・雪や寒さの克服と生活文化の創造（利雪・親雪）
 - ・アイヌ文化の理解とその振興
 - ・北方圏諸国との国際交流、異文化理解
 - ・農林水産業を基幹産業とする関連産業の発展
 - ・人材養成・産学官の連携による知的産業の集積と人材養成
- ②本道の生涯学習施策の独自性に基づく「ほっかいどう学」
 - ・NPOとの協働による地域づくり
 - ・道民カレッジを通じた産学官のネットワークによるひとづくり



2 例えば、道・道教委及び関係機関等の実施している学習機会をもとにキーワードでの区分を試みると、次のような区分が可能である。

- ①北海道の総合的施策に関わるもの（道州制、市町村合併、少子化・高齢化など）
- ②北海道の文化と歴史に関わるもの（博物館・美術館のセミナー、アイヌ民族の歴史と文化など）
- ③北海道の自然・環境に関わるもの（自然保護、グリーンツーリズム、森づくり・森林サポーター、景観づくり、自然体験など）
- ④北海道の産業に関わるもの（産業の活性化、起業、産業クラスター、農林水産業の発展、バイオテクノロジーの開発と産業化、観光・アウトドア事業、新エネルギー、IT産業の振興など）
- ⑤北海道の生活に関わるもの（スローライフ、スローフード、地産地消、生きがい農業、ア

ウトドアスポーツ、移住など）

- ⑥北海道の芸術、スポーツに関わるもの（よさこいソーラン、冬のスポーツ、雪まつり等の地域イベントなど）
- ⑦北海道の地域づくりの方法に関わるもの（道民と行政の協働、産学官連携、男女平等参画、ボランティア・NPOなど）

このような領域区分は、道民カレッジが、ほっかいどう学を柱にして運営するために不可欠である。例えば「ほっかいどう学」博士を道民カレッジの学位として認定するためには、従来の学習の累積に加えて①～⑦の各領域について必ず学習することを求めるなどが考えられる。

5. 方法

- 1 道民自身が北海道づくりの主体として学習するのにふさわしい方法を開発し、参加型の学習を重視する。企画・実施に道民自身に関わることにより、創意が発揮され、楽しさが生み出される。
- 2 市町村等で取り組まれている地域学との連携を図る。
- 3 地域住民の学習活動のリーダー及び行政職員等の養成・能力の向上を図る。そのためには、研修プログラムを充実させ、学習方法についてもリーダーや支援者の専門性を高めるとともに、道民自身が企画・運営に参加する学習プログラムの開発を行う。

6. 具体的な取り組み方

- 1 大学放送講座を充実させ、「ほっかいどう学」としての体系性を強める。そのためには、もともと方式からもっと内容の統一性・体系性を強める。
- 2 今まで様々に取り組んでいる北海道教育委員会等の主催事業を「ほっかいどう学」という立場から再編成するなど、主催講座の拡充を図る。
- 3 大学放送講座のスクーリングを充実させ、「ほっかいどう学出前講座」を実施する。実施を希望する市町村の要望にもとづき、学習者の参加も図りながら、その企画・実施を市町村（教育委員会等）と道民カレッジが共同で取り組む。
- 4 教育研究機関や市町村、NPO、企業などから講座についてのプロジェクト方式の事業を公募し、優れた事業への顕彰等を行う。その成果を広く道民に知らせ、連携講座の充実を積極的に図る。学習機会の開設にあたっては、とくに地方での開催に力点を置く。
- 5 地域づくりの方法を重視したリーダー養成プログラムを開発し、実施する。その取り組みには、道民カレッジ学位取得者に参加を呼びかけることも考えられる。
- 6 「ほっかいどう学」を柱に道民カレッジを発展させていくうえで、カレッジ事務局の役割が今以上に求められる。道民カレッジ事務局による講座の企画・実施をすすめるためには、事務局のコーディネート機能を高める必要がある。

道民カレッジからのお知らせ

平成16年度大学放送講座スクーリングの開催案内

開催地	実施日	場 所	担当講師	定 員	申 込 先
函 館 市	11月 6日 (土) 13:30~15:30	函館市亀田福祉センター	札幌大学 佐藤 郁夫 教 授	50名	函館市教育委員会 TEL 0138-21-3445
天 塩 町	11月 9日 (火) 19:00~21:00	天塩町社会福祉会館	北海道東海大学 上瀧 實 教 授	150名	天塩町教育委員会 TEL 01632-2-1026
砂 川 市	11月12日 (金) 18:00~20:00	砂川市公民館	北海道情報大学 藤井 敏史 助教授	30名程度	砂川市教育委員会 TEL 0125-54-2121(内381)
大 滝 村	11月15日 (月) 19:00~21:00	大滝村基幹集落センター	北海道教育大学 小林 真二 助教授	20~30名	大滝村教育委員会 TEL 0142-68-6111
白 糠 町	11月24日 (水) 10:00~12:00	白糠町社会福祉センター	札幌医科大学 吉尾 雅春 教 授	100名	白糠町教育委員会 TEL 01547-2-2287
南 幌 町	11月27日 (土) 10:00~12:00	ふるさと物産館 (ビューロー)	北海道東海大学 上瀧 實 教 授	50名	南幌町教育委員会 TEL 011-378-2121(内271)
上富良野町	12月 3日 (金) 10:00~12:00	上富良野町保健福祉総合センター	北海道医療大学 堀田 清 助教授	200名	上富良野町教育委員会 TEL 0167-45-5511
北 檜 山 町	12月14日 (火) 9:30~11:30	北檜山町農村環境改善センター	札幌医科大学 吉尾 雅春 教 授	150名	北檜山町教育委員会 TEL 01378-4-5111(内353)
北 広 島 市	1月13日 (木) 18:30~20:30	北広島市芸術文化ホール活動室	北海道医療大学 堀田 清助 教 授	50名程度	北広島市教育委員会 TEL 011-372-3311(内895)
帯 広 市	1月28日 (金) 19:00~21:00	とかちプラザ講習室402	札幌大学 佐藤 郁夫 教 授	50名	帯広市教育委員会 TEL 0155-22-7915
札 幌 市	1月17日 (月) 13:00~15:00	かでの2・7 4階大会議室	北海道情報大学 藤井 敏史 助教授	各200名	(財)北海道生涯学習協会 学習振興課 TEL 011-231-4111 (内線36-343)
	2月 7日 (月) 13:00~15:00		北海道教育大学 小林 真二 助教授		

高等学校地域連携講座モデル事業を実施しています

道立高等学校の開放講座として、地域課題に取り組む生涯学習講座が実施されています。これらは、全て道民カレッジ連携講座となっております。詳しい内容はそれぞれの高等学校にお問い合わせ下さい。

	学 校 名	連 絡 先		学 校 名	連 絡 先
後志	小樽工業高等学校	〒047-8540 小樽市最上1-29-1 TEL 0134-23-6388	十勝	音更高等学校	〒080-0574 音更町駒場西1 TEL0155-44-2010
留萌	留萌千望高等学校	〒077-0024 留萌市千鳥町4丁目 TEL 0164-42-2474	釧路	白糠高等学校	〒088-0323 白糠町西4北2 TEL01547-2-2826
宗谷	枝幸高等学校	〒098-5822 枝幸町北幸町529-2 TEL 01636-2-1169	根室	中標津高等学校	〒086-1106 中標津町西6南5 TEL01537-2-2059
網走	美幌農業高等学校	〒092-0017 美幌町字報徳94 TEL 01527-3-4136			

「平成16年度道民カレッジ大学放送講座展」を開催しました

道民カレッジ事務局が入っている「かでの2・7」ビルの9階情報交流広場で、9月2日から29日まで開催されました。

これまでの道民カレッジの歩みや現況、本年度実施する「大学放送講座」の放送内容や参加六大学の紹介等を行いました。

期間中、たくさんのカレッジ生や道民の方が来場し、盛況のうちに終了することができました。



カレッジだより

平成16年11月発行

編集・発行 道民カレッジ事務局
財団法人 北海道生涯学習協会
〒060-0002
札幌市中央区北2条西7丁目かでの2・7ビル9階
TEL (011) 231-4111(内線36-343) FAX(011) 281-6664
URL <http://www.hsgk.jp/college/>

